

## 米上院、USPTO 新長官にカッポス氏を承認

2009年8月7日  
JETRO NY 中楨・横田

本日正午過ぎ、上院本会議は、オバマ大統領により米国特許商標庁 (USPTO) 長官に指名されていたデビッド・カッポス (David J. Kappos) 氏<sup>1</sup>を発声採決による全会一致で承認し、同氏がUSPTO長官に就任することが確定した<sup>2</sup>。

同氏の任命に関しては、6月18日にホワイトハウスによりUSPTO長官指名が発表された後、7月29日には上院司法委員会において承認に係る公聴会が開催され、パトリック・リーヒ (Patrick Leahy) 委員長 (民、バーモント) より、「USPTOが必要としているのは、強固でアカウントビリティを持つリーダーシップである。USPTOは、出願のバックログ (滞貨) や悪化する財務状況など、様々な深刻な問題を抱えている。また、特許の質はUSPTOの審査に負うところが大きい。大統領が優れた資質と能力を持った人材をこのポジションに指名したことを喜ばしく思う。この職は政府の中でも最も困難を抱える (タフな) ポストである。カッポス氏が承認された暁には、特許システムの改善に向けて、特許改革法案の成立を目指し、共に協力して取り組んで行きたい」と、カッポス氏に大きな期待を寄せる発言があったところ。

また、上院本会議前日の6日午前には、上院司法委員会が開かれ、全会一致で同氏の任命を承認し、本会議へ報告していた。

同氏は業界や団体の立場を問わず幅広く米国知財関係者からの支持を集めており、現在米国が直面している特許法改正やUSPTOの運営改善、財政難といった諸問題に早急に対処する必要性から、多くの米国知財関係者から、上院本会議における (議会夏季休会前の) 早期承認が強く望まれていたところであり、今般の承認は、その期待に応える形となった<sup>3</sup>。

今般の承認を得て、同氏は近日中にUSPTO長官に就任することになるが、具体的な就任時期は現在のところ不明である。

(了)

<sup>1</sup> [090618【米国 IP 情報】オバマ大統領、USPTO 新長官にカッポス IBM 社副社長を指名](#) 参照

<sup>2</sup> 実際には、夏季休会を目前に控え、山積した人事承認案件を一斉に片付けるように、他の人事承認案件とともにまとめて承認された。また、前日に点呼投票はしないと明言していたこともあり、議場にいる議員の数も少なく、ほぼ議長とリード院内総務のやり取りだけで承認した。

<sup>3</sup> 8月10日より9月7日まで議会は夏季休会となるため、休会前に承認されない場合、原則的には休会明けまで承認を待つことになり、同氏のUSPTO長官就任が遅れる恐れがあった。